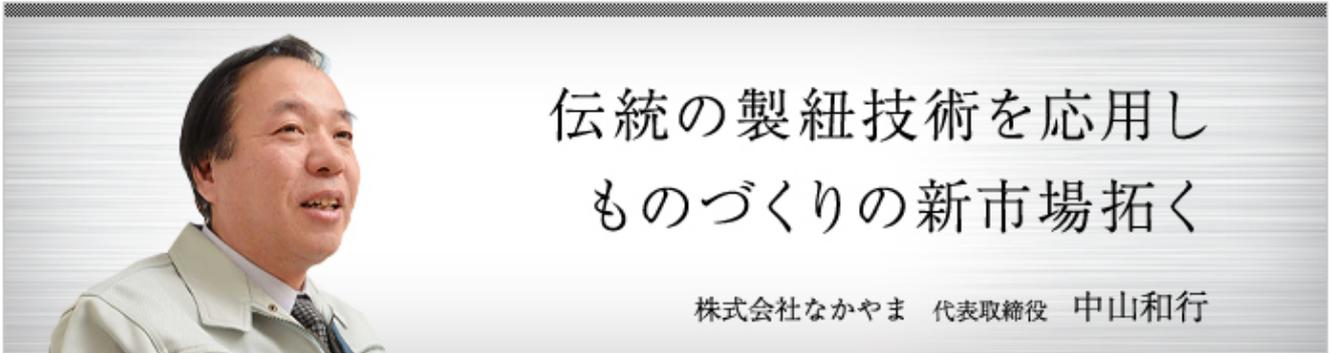


EXECUTIVE INTERVIEW

経営者インタビュー



プロフィール 広島県出身。少年時代より模型づくりをはじめとした「ものづくり」に興味を持ち、学校卒業後はガラスビンの製造会社に就職。その後、現夫人と知り合い、夫人の実家が営む組紐の製造工場を見学して感銘を受ける。義父は自代での廃業を予定していたが、説得して跡継ぎを宣言した。持ち前の器用さもあり、すぐに仕事を習得する。49歳で大病を患うも無事復帰。また、2011年には火災の憂き目に遭うが再建を果たした。

組紐の町として栄える神奈川県相模原市津久井地区。安価な海外製品に押され、事業者は年々減りつつあるが、高品質の組紐をつくることで歴史を紡いでいる企業もある。株式会社なかやまもその1社だ。伝統の技術を応用してヘアゴムの生産を始め、その品質の高さから多くのシェアを占めるようになった。途中、工場焼失という災難に見舞われるも、多くの人の助力によって再建。若き後継者も加わり、さらなる発展を遂げようとしている。

伝統の組紐業からヘアゴム製造にシフト

吉井 私は工場見学が好きで、今日はヘアゴムの製造現場を見せていただけるとのことで楽しみに来ました。

中山 そうでしたか。元々、津久井地区は組紐業の盛んな地でしたね。大正時代にこの地区の佐藤時太郎という人が東京に出て組紐工場を興し、そちらで技術を学んだ人々が地元に戻って製紐業を次々興したのが始まりなのです。組紐には衣料用、産業用、包装用など様々なものがあり、当社ではかつて人形の装飾用の紐や電線などを手がけていました。

吉井 では、ヘアゴム製造は最近になって始められたのですか。

中山 はい、当時は音響関係の電線製造を主にしていましたが生産拠点が海外に移り、事業転換を迫られて新しく着手したのがヘアゴム。現在の品質に高めるまで3年ほどかかりましたね。

吉井 石の上にも3年と言いますが、よくあきらめずに研究を続けられましたね。

中山 ものづくりにかかる苦労は厭わない性格なんです。では工場をご案内しましょう。



インタビューー 吉井怜(女優)

独自の製造技術で安心の商品を

吉井 わあ、巨大なポビン！

中山 この工場では素材からの加工を行っています。従来、業界で主流とされていた製造方法は強度も見た目も作業効率も良くなかったのですが、当社では製造方法を見直し、高品質のヘアゴムが安定して生産できる技術を開発しました。

吉井 ポビンに巻き付いている紐が、工場内を縦横無尽に移動していますね。

中山 紐の表面に特殊なコーティング剤を施していて、それによって強度や生産性が高まる仕組みで、コーティング剤や調合機械を開発するのに3年を要しました。その成分は企業秘密です(笑)。この製造方法は特許も取得していますよ。ただ温度管理が非常に難しく、まだまだ改良の余地はありますね。

吉井 ちなみに、この工場で何種類の紐を一度につくれるのですか。

中山 ポビンは32個あるので、その数だけ同時に違った種類を加工できます。太い紐用のポビンは最長800m、細い紐用のポビンは1400mlほど巻き取れます。

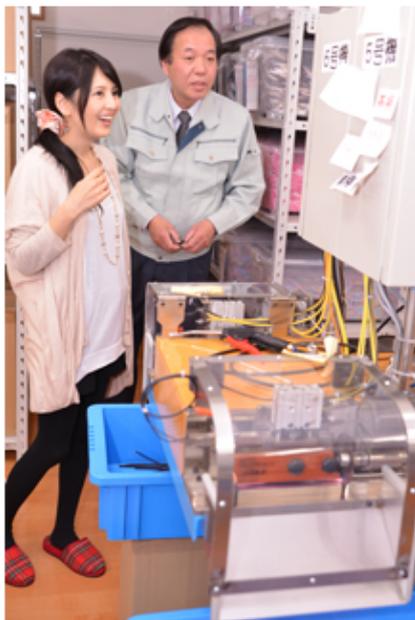
吉井 あ、コーティングが終わった紐はバケツの中に収まっていきますね。



全国的にも数少ないヘアゴムを製造する工場の様子



適度な長さにかットされたゴム。完成品まであと一歩！



吉井 第二工場にある紐は、すでに製品に近くなっていますね。パステルカラーがあったり、ラメ入りのものがあったり…。

中山 はい。この裁断機も私が開発したものです。紐にテンションをかけ、お客様の要望に合わせた長さで裁断。それを1000本ずつまとめていきます。最後に品質をチェックして出荷するという流れです。

吉井 ヘアゴムって普段何気なく使っていましたが、製品になるまで、結構手間がかかっていたんですね。知りませんでした。

中山 当社のようにヘアゴムを生産している工場は、全国で数ヶ所しかありません。当社が先駆けで、海外産が出回るまでは70%近くのシェアがありました。今も品質を重視するお客様は海外産ではなく当社のもを使用してくださっており、皆様に安心してもらえる製品を丁寧につくり続けているんですよ。

苦しさよりも楽しさが勝るものづくり



吉井 工場を見せていただきありがとうございました！ところで、中山社長はおいくつの時からこの仕事に携わっておられるのでしょうか。

中山 31歳の時からです。ここは、妻の祖父が始めた工場です。義父が継ぎ、私で3代目。妻と交際を始めてこちらに遊びに来た時、紐の華やかさに興味を覚えて弟子入りを願い出たんです。男の子に恵まれなかった義父は自分の代で廃業しようと考えていたらしいのですが、「もったいないから」と説得して跡を継ぎました。

吉井 そのような経緯があったんですか。奥様もさぞ喜ばれたでしょう？

中山 それか、当時勤めていた会社で働き続けてほしい、と言われました（笑）。妻は自営業の不安定さをよくわかっていたのでしょうね。でも、経営の苦しさより「ものづくり」への興味のほうが勝りました。

吉井 その後、事業をヘアゴムの製造に転換されたのはどのようなタイミン

グで？

中山 1996年頃からです。取引先から画期的なヘアゴムの製法がないだろうかと提案をされ、義父と「これを何とかモノにしよう」とヘアゴムに着目しました。工場でお話したように、すぐに満足のゆく商品ができあがったわけではありません。売り上げの柱となる製品を手がけながら、かたわらで商品開発を行い、当時は寝る間もないほどでした。枕元にメモを置き、思いついたことはいつでもメモできるようにして休んでいたものです。

吉井 商品開発の熱意に頭が下がります。でも、よくお身体をこわされませんでしたね。

中山 それか、49歳の時に大腸がんを患ってしまいました。うまくいかないと、かえって征服欲がわき起こる性格なので、気分的には楽しかったのですが、さすがに身体は悲鳴を上げていたのでしょう。判明した時には進行していましたね。さすがに宣告を受けた時は怖気づきましたが、父親としても工場の後継者としてもやるべきことがたくさんあると思い、手術を即決しました。入院中も、工場の機械が壊れたと聞くと病院を抜け出して修理に来たことも。折もおり、子供がそれぞれ高校、中学、小学の卒業と進学を控えて大変な時期です。家のことは妻に任せっぱなしで、妻にはとても感謝しています。



研究に研究を重ね、独自の製法で高品質なヘアゴムを手がける

吉井 私は大病を患い、自暴自棄になったこともありました。仕事も軌道に乗りかかっていたので、「何で私だけが」と。でも、兄に「生きていないと仕事もできない。焦らないでいい」と言われて目が覚めたんです。病気になって「人間は周囲に助けられて生きているんだ」と実感でき、人付き合いも上手になったように思います。

多くの方に支えられて今がある



吉井 それにしても、今はすっかりお元気になられた様子ですね！ お仕事も順調なようで何よりです。

中山 おかげさまで、と素直に喜びたいところですが、私の人生はどうも波瀾万丈にできているようで。実は2011年に工場が火災で全焼してしまったのです。幸い、風がない日で延焼せず、近隣の方の被害は最小限で済みました。取引先には多大なご迷惑をおかけしましたが、必ず再建するからと誓うと変わらぬ取引を約束してください、救われた気分でした。

吉井 全焼とは、お気の毒でしたね。そうすると、現在の生産体制は火災後につくられたものなのですか？

中山 はい、義叔父がすぐに駆けつけてくれ、2ヶ月半にわたって工場の図面作成などを手伝ってくれました。今日があるのは義叔父のおかげだと思っています。また、バンド活動に熱心だった次男も火災の翌日から仕事を手伝ってくれるようになり、とても心強い味方を得ました。

吉井 お子さんのサポートについては、中山社長のほうから誘われたのですか。

中山 いいえ、彼の判断です。音楽を辞めてもいいのかと聞くと「今までやりたいことをしてきたから」と言ってくれましたが、我慢しているのが伝わりましたから、申し訳なく思いましたね。もちろん私も手をこまねいているわけいきません。機械図面も焼失しましたから焼け跡から機械の部品を拾い集め、寸法を測って複製するなど再生に努めましてね。結果的に火災から半年後には本格的に再稼働することができました。

吉井 全焼から半年で再稼働とは、とても早い再出発です。意気込みが感じられますよ。

中山 ご迷惑をかけた皆様に償いを、そして助けてくださった多くの方に恩返しをするためには1日も早く再出発するしかないと考えました。波瀾万丈な人生ですが、人に恵まれたことが幸い。私を支えてくれている方々の存在が、人生の財産です。

これまで加工業を行ってきましたが、今後は生産や販売体制も確保した業務展開していきたいと思っています。そのためにはさらに新しいものを生み出していかなければ。ただ、開発の目的を秘密にしている息子に「オヤジがまた変な物をつくっている」と思われますから(笑)、図面や形にして、ちゃんと伝えていきたいですね。



吉井 育成にも力を注がれるということですね。御社から新しい組紐産業の形が生まれることを願っています！

「仕事を楽しむ」とは..

仕事の中で想定外なトラブル発生もあるけれど、それが難問であれば技術アップのチャンスと捉えています。そして、製品が完成した時の達成感は何ものにも代え難い。この積み重ねが何よりですね。

(中山和行)

:: 会社概要 ::

- | | |
|--------|---------------------------|
| ■ 社名 | 株式会社なかやま |
| ■ 本社 | 〒252-0155 神奈川県相模原市緑区鳥屋788 |
| ■ 事業内容 | 組紐製造／装飾品製造 |
| ■ 設立 | 平成24年7月 |
| ■ 従業員数 | 6名 |